禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

B43

「中央職業能力開発協会編」

令和７年度 技能検定
２級 かわらぶき 学科試験問題
(かわらぶき作業)

1. 試験時間　1時間40分
2. 問題数　50題(A群25題、B群25題)
3. 注意事項
   (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2) 答案用紙(真偽法と多肢択一法の併用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。問題はA群(真偽法)とB群(多肢択一法)とに分かれています。
   (4) 試験開始の合図で始めてください。
   (5) 解答の方法(真偽法と多肢択一法の併用)は次のとおりです。
      イ. A群の問題(真偽法)は、一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ. B群の問題(多肢択一法)は、正解と思うものを一つだけ選んで、解答してください。二つ以上に解答した場合は誤答となります。
      ハ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ニ. 答案用紙の解答欄は、A群の問題とB群の問題とでは異なります。所定の解答欄に、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄はA群は50題まで、B群は25題まで解答できるようになっています。
   (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

［A群（真偽法）］

1　入母屋造りの破風の大きさによる分類には、七つ母屋造りはない。

2　乗越し屋根には、谷がある。

3　寄棟屋根において、隅棟の勾配は、平の勾配よりも緩やかである。

4　屋根に野地むらがある場合の修正方法には、縦桟木を用いる方法もある。

5　アスファルトルーフィングは、土居葺きよりも通気性に優れている。

6　屋根葺き材料には、天然石を加工したものもある。

7　たがねで瓦を削り取る場合は、刃先の全体を使って行うのがよい。

8　民家等の比較的小さい門の屋根に瓦を揚げる場合は、一般に、屋根の片側に瓦を全部揚げずに、表流れと裏流れのバランスを考える必要がある。

9　瓦屋根標準設計・施工ガイドラインによれば、F形桟瓦の取り付けは、防災フックが付いていれば、全数の瓦を釘等で下地に緊結しなくてもよい。

10　縦桟木葺き工法の目的の一つに、縦桟木を用いて桟瓦や平瓦の左右のぐらつきを防ぐことがある。

11　S形瓦は、屋根の左側から葺き始めるのがよい。

12　瓦葺き工事を進めるためには、設計図書や見積書等に基づいて施工計画及び管理計画を立てなければならない。

13　棚足場とは、本足場のことをいう。

14　低層建築工事用簡易わく組足場の1スパン当たりの最大積載荷重は、500kg程度である。

15　南蛮漆喰(しっくい)は、消石灰、砂、すさ及びセメントを水で練り混ぜて作られたものである。

16　柄振(えぶり)台とは、切妻屋根の陸(ろく)棟(大棟)の両端に据える鬼瓦の台となる瓦をいう。

17　隅勝手瓦は、隅棟際に使用される三角状の桟瓦のことである。

18　軒瓦には、雨水の水切れをよくするために、前面に垂れや剣が付いているものがある。

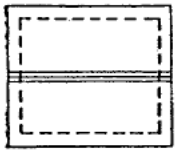
［A群（真偽法）］

19　木材の心材(赤身)は、一般に、辺材(白太)よりも腐朽しやすい。

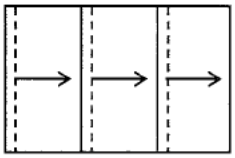
20　和小屋組には、丸太や曲がった材料を使用することはできない。

21　建築基準法関係法令によれば、金属板は、不燃材料である。

22　次図の屋根伏図は、寄棟屋根を表している。



23　次図ののこぎり屋根の屋根伏図において、矢印は、各屋根面の傾斜(高さの低い方)を示している。

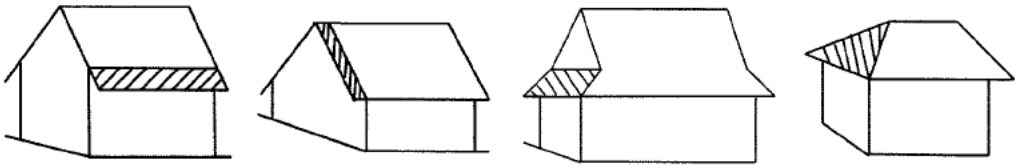


24　巻上げ装置の巻上げ用ワイヤロープは、キンクしたワイヤロープを使用してはならない。

25　労働安全衛生法関係法令によれば、高さ2m以上で手掛け又は、階段を設けていない架設通路の勾配は、30度以下とすることと規定されている。

［B群（多肢択一法）］

1　次図のうち、斜線部が傍軒（そば）を表しているものはどれか。



イ　　ロ　　ハ　　ニ

2　次の屋根形状のうち、最も屋根裏を換気しやすいものはどれか。

イ　切妻屋根
ロ　八注屋根
ハ　寄棟屋根
ニ　方形（ほうぎょう）屋根

3　文中の(　　)内に当てはまる数値の組合せとして、適切なものはどれか。

公共建築工事標準仕様書によれば、下葺き材のアスファルトルーフィングを葺く場合の重ね代は、上下(流れ方向)が(①)mm以上、左右(長手方向)が(②)mm以上と規定されている。

	①	②
イ	100	150
ロ	100	200
ハ	200	150
ニ	200	100

4　日本産業規格(JIS)によれば、プレスセメントがわらの桟瓦の形状に含まれないものはどれか。

イ　フランス形
ロ　和形
ハ　平形
ニ　S形

5　ひわだ葺きに使用する材料はどれか。

イ　スギの皮
ロ　スギの赤味
ハ　カシの皮
ニ　ヒノキの皮

6　瓦葺き工事に使用しない器工具はどれか。

イ　電動ドリル
ロ　吹付け塗装機
ハ　電動切断機（ディスクグラインダー）
ニ　釘打ち機

［B群（多肢択一法）］

7　直角度を調べるのに使用する大矩（おおがね）の各辺の比率として、適切なものはどれか。
イ　1：3：5
ロ　2：4：6
ハ　3：4：5
ニ　4：5：6

8　鳥休みを取り付ける屋根瓦として、適切でないものはどれか。
イ　袖瓦
ロ　鬼瓦
ハ　棟用素丸瓦
ニ　ふすま瓦

9　一文字切隅瓦に組み合わせる瓦として、適切なものはどれか。
イ　駒隅巴瓦
ロ　半月巴瓦
ハ　棟巴瓦
ニ　万十隅巴瓦

10　棟で使用する甍（いらか）瓦の納まり勾配として、最も適切なものはどれか。
イ　2／10～3／10
ロ　4／10～5／10
ハ　6／10～7／10
ニ　8／10～9／10

11　瓦葺きの工法に関する記述として、適切でないものはどれか。
イ　F形瓦の工法は、一般に、横葺きを行う。
ロ　F形瓦の後付け型袖瓦は、瓦緊結用釘を使用して緊結する。
ハ　S形桟瓦は、横桟木に引っ掛けて全ての瓦を緊結する。
ニ　S形瓦は、棟に立物を使用することがある。

12　本瓦葺きに使用しないものはどれか。
イ　平唐草（ひらからくさ）軒瓦
ロ　敷瓦
ハ　軒巴瓦
ニ　素丸瓦

13　材料を現場に搬入する場合の注意事項として、適切でないものはどれか。
イ　現場の状況及び保管場所の確認を事前に行う。
ロ　材料搬入の日時と手順の確認を行う。
ハ　関連する他の工事業者と段取りの打合せを行う。
ニ　材料の荷おろしは、搬入時の運搬業者の都合を最優先して行う。

［B群（多肢択一法）］

14　軒瓦を施工する場合、作業用軒足場の作業床から軒先広小舞までの高さとして、一般に、適切なものはどれか。

イ　100～ 300mm
ロ　400～ 600mm
ハ　700～ 900mm
ニ　1000～1200mm

15　次のうち、かわらぶき作業の副資材でないものはどれか。

イ　横桟木
ロ　足場板
ハ　下葺き材
ニ　緊結材

16　破風に使用されない瓦はどれか。

イ　掛瓦
ロ　平瓦
ハ　車袖瓦
ニ　三つ又瓦

17　瓦に関する記述として、適切でないものはどれか。

イ　桟瓦は、平葺きに使用する。
ロ　掛瓦は、軒に使用する。
ハ　冠瓦は、棟に使用する。
ニ　谷筋かい瓦には、谷に使用する。

18　53A形の瓦の寸法に関する記述として、適切でないものはどれか。

イ　桟瓦の全幅寸法は、56形の全幅寸法と同じである。
ロ　3.3m²当たりの葺き枚数(概数)は、53枚である。
ハ　桟瓦の働き幅寸法は、265mmである。
ニ　桟瓦の谷の深さは、35mm以上である。

19　日本産業規格(JIS)において、粘土瓦の製法による区分として、規定されていないものはどれか。

イ　銀黒瓦
ロ　無ゆう瓦
ハ　いぶし瓦
ニ　ゆう薬瓦

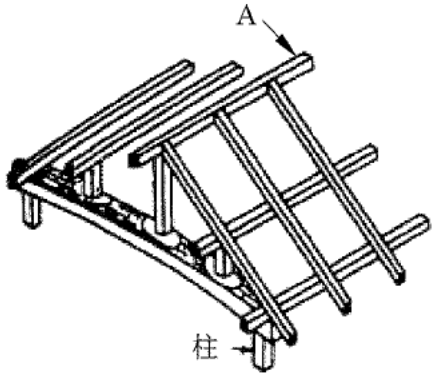
［B群（多肢択一法）］

20　日本産業規格(JIS)における粘土がわらの品質を検査する試験の組合せとして、適切なものはどれか。

イ　曲げ試験、吸水試験、凍害試験
ロ　製法試験、破壊試験、吸水試験
ハ　破壊試験、耐水試験、凍害試験
ニ　形状試験、曲げ試験、耐水試験

21　次図の和小屋組におけるA部の名称として、適切なものはどれか。

イ　小屋梁（はり）
ロ　たる木
ハ　母屋
ニ　棟木



22　建築基準法関係法令において、不燃材料でないものはどれか。

イ　モルタル
ロ　しっくい
ハ　コンクリート
ニ　アスファルトルーフィング

23　図面において、実寸法での1mが5cmに描かれている場合の縮尺として、適切なものはどれか。

イ　1：50
ロ　1：30
ハ　1：20
ニ　1：10

24　高層屋根の瓦葺き工事において、クレーンでつり上げ荷重が1トン以上の材料上げを行う場合、重量物を掛けたり外したりする作業に必要な資格はどれか。

イ　かわらぶき1級技能士
ロ　瓦屋根工事技士
ハ　職長
ニ　玉掛け技能講習修了者

［B群（多肢択一法）］

25　文中の(　　)内に当てはまる数値として、適切なものはどれか。

労働安全衛生法関係法令によれば、事業者は、スレート、木毛板等の材料で葺かれた屋根の上で作業を行う場合において、踏み抜きにより労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、幅が(　　)cm以上の歩み板を設け、防網を張る等踏み抜きによる労働者の危険を防止するための措置を講じなければならないと規定されている。

イ　30

ロ　28

ハ　25

ニ　23